

氏名	金 炳 洙		
学位の種類	医 学 博 士		
学位授与番号	乙 第 1602 号		
学位授与の日付	昭和60年9月30日		
学位授与の要件	博士の学位論文提出者（学位規則第5条第2項該当）		
学位論文題目	THE PRESENT STATUS OF CHILDHOOD CANCER THER- APY IN KOREA 韓国における小児癌治療の現況		
論文審査委員	教授 木本 浩	教授 木村郁郎	教授 折田薫三

学位論文内容の要旨

大韓民国では、最近まで肺結核や一般感染症での死亡率が高いために、小児における癌の研究や治療が後まわしにされてきたが、10数年前から経済の発展や健康管理体制の改善と共に小児癌が診断、治療されるようになってきた。

大韓民国における小児癌の発生パターンを延世大学の延世ガンセンターの小児腫瘍学科において、1974年以来検討してきた。大韓民国における多くの腫瘍の発生頻度は日本の発生頻度と一般的にはよく似ているが、急性骨髄性白血病、非ホジキンリンパ腫と肝癌は大韓民国の小児にや、多く見られる。小児癌の治療には1974年7月以来、延世大学癌センターでは、手術、放射線治療、及び薬剤併用等の集学的治療が行われ、その結果生存率の著明な向上がみられるようになった。即ち急性リンパ球性白血病においては5年生存率50%、ウィルムス腫瘍においては5年生存率65%、神経芽細胞腫では45%、骨肉腫においては2年で55%、又悪性組織球症では5年において20%の生存率が認められるようになった。

以上のような結果をうるに至るまでの治療の方法や結果の考察は大韓民国の経済的環境や衛生行政の現状の中で最も効果的な治療法を確立するために行われたものである。これらの集学的治療法は大韓民国における小児治療の指針になるものと考えられる。

論文審査の結果の要旨

この論文は大韓民国延世大学ガンセンターにおける1974年以来、現在までの小児癌の

発生パターン，治療の方法およびその結果について検討した研究報告であり，大韓民国の経済的環境，衛生行政の現状の中で最も効果的な集学的治療法を確立し，急性白血病など数種の小児癌において1974年以前と比し，生存率の著明な向上をもたらしている。

よって，本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。